

未来の東京に向けた水辺整備のあり方検討会（第3回）議事要旨

日時：令和4年12月23日（金）14:00～16:00

主な意見は以下のとおり。

- ・水辺の拠点を結ぶネットワークとしては、河川における舟運の他、徒歩、自転車、自動車、鉄道等が考えられ、まちづくりと連携した交通手段の確保が重要である。
- ・公園整備と一体になったスーパー堤防は利用者が多く、歩きたくなるような水辺空間を創出することが一層の利活用促進につながる。
- ・恒常的な利活用を促すためには、日常利用を増やしていくことが重要であり、交通結節機能やオープンカフェ等の設置を進める必要がある。そのため、水辺に顔を向けたまちづくりを進めるための関係者との連携が必要である。
- ・水辺のエリアマネジメントとして、中間支援組織が窓口となって、利用手続きや、河川還元等を行う仕組みが出来ると良い。
- ・水辺の利活用を促すためにも、地域と利用者をつなぐ SNS 等の情報発信や、河川に関するイベント等の情報を一括して Web 上で見ることが出来るサービスが今後出てくると良い。
- ・水辺を使いたい利用者の取組を支援できると良い。例えば、隅田川サポーター制度を活用して、都民が川の管理や活動に参画することが考えられる。
- ・日常的に使われていない防災船着場は、沿川の街の魅力と連携して利活用の付加価値をつけていくことが重要。使用にあたっての手続きは一括できると利便性が向上する。
- ・今後のあり方として、各関係者が共有できる隅田川の将来像のベースが示せると良い。また、時間軸を考え、段階的な取り組みを行うべき。
- ・都民の意見を反映するパブリックコメントを踏まえて、今後の「あり方」の策定に向けた方向性をわかりやすく打ち出せていけると良い。